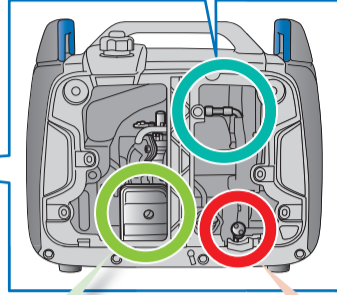
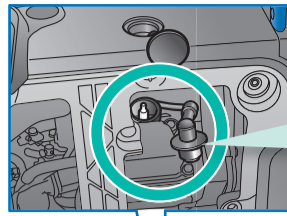
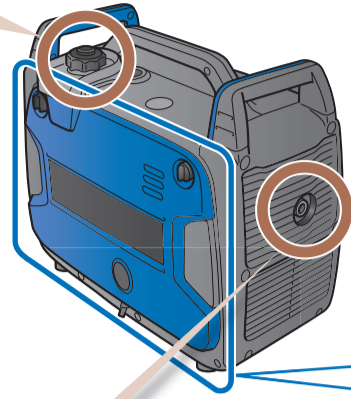


定期点検は非常に大切です。ヤマハ発電機サービス店にご用命ください。

* 本体同梱の取扱説明書を必ずお読みください。

燃料タンクストレーナの清掃

- 1 エンジン停止
- 2 燃料タンクストレーナの清掃
燃料タンクキャップ
ストレーナ
ガソリン
- 3 ストレーナを拭き、元の位置に戻し、燃料タンクキャップを取り付ける

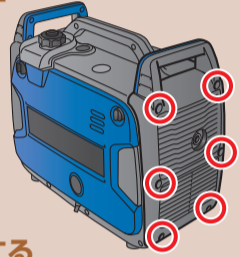


スパークプラグの点検・清掃

- 1 エンジン停止
 - 2 パネルを開けスパークプラグキャップを外す
 - 3 市販のプラグレンチ (20.8mm) を使いスパークプラグを外す
 - 4 スパークプラグの点検
キツネ色→OK
白/黒→NG
→エアクリーナ点検
※汚れを落とす
0.6~0.7mm
 - 5 スパークプラグを取り付ける
指でいっぱい締め
トルクレンチ = 20N・m
1/4~1/2回転
レンチで締める
 - 6 スパークプラグキャップを取り付け、パネルを閉じる
- 必ず指定品 (NGK-BPR6HS) を使用してください。

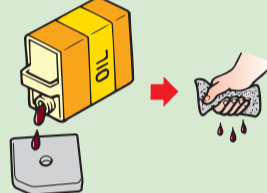
マフラーワイヤネットの清掃

- 1 ボルトを外し、カバーを外す
- 2 ブラシでこする
マフラーワイヤネット
ゆるめて外す



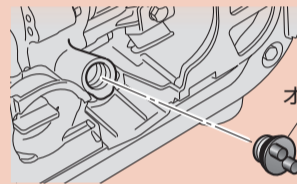
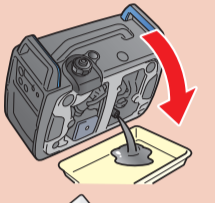
エアクリーナエレメントの点検・清掃

- 1 エンジン停止後、エアクリーナカバーを固定しているスクリュを外す
- 2 エレメントを外す
- 3 きれいなオイルで洗浄しエンジンオイル等にひたす
- 4 余分なオイルを取り除きエアクリーナ本体に戻す



エンジンオイルの交換

- 1 2~3分暖機運転後エンジン停止
 - 2 スクリュをゆるめ、パネルを外側に引いて取り外す
パネル スクリュ
スクリュ フック
 - 3 オイルプラグを取り外す
オイルプラグ
 - 4 発電機本体を傾けてエンジンオイルを抜く
 - 5 注入口の口元まで規定量給油
エンジンオイル 400mL
ココまで入れる
※発電機本体を水平に置いた状態です。
 - 6 オイルプラグを締め付ける
- エンジンオイル
容量：400mL
グレード：API分類SE級以上のエンジンオイル (SAE10W-30または10W-40)
オイルが少ない場合は始動しません。また、規定量以上に給油しないでください。



長期保管手順

要 点 使用後または定期運転後、次回の使用が3ヶ月以降になる場合は、1~6の作業を行なって保管し、次に使用する時に備えてください。排出する燃料を受け取る容器を用意してください。

* 本体同梱の取扱説明書を必ずお読みください。

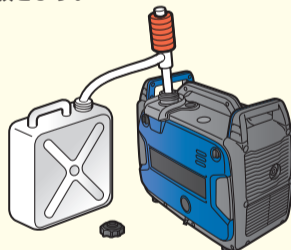
- 1 エンジンスイッチを“停止”の位置にしてエンジンを停止します。



- 2 燃料タンク内の燃料を抜きます。

警告

- 燃料タンクキャップは確実に締め付けてください。
- こぼれた燃料はただちに布きれ等で完全にふき取ってください。火災のおそれがあります。



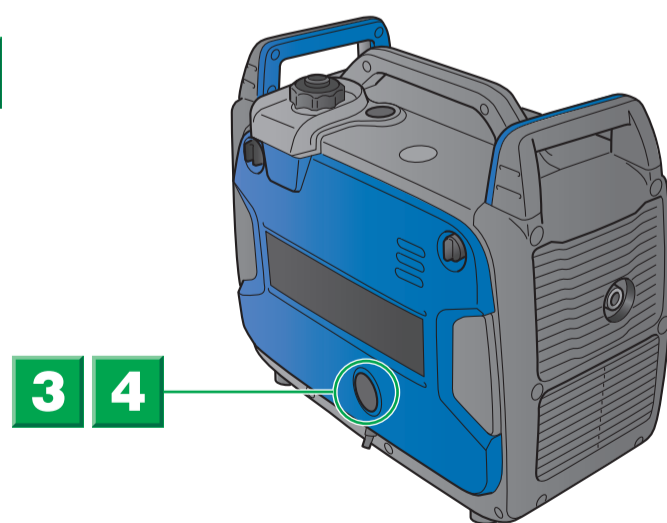
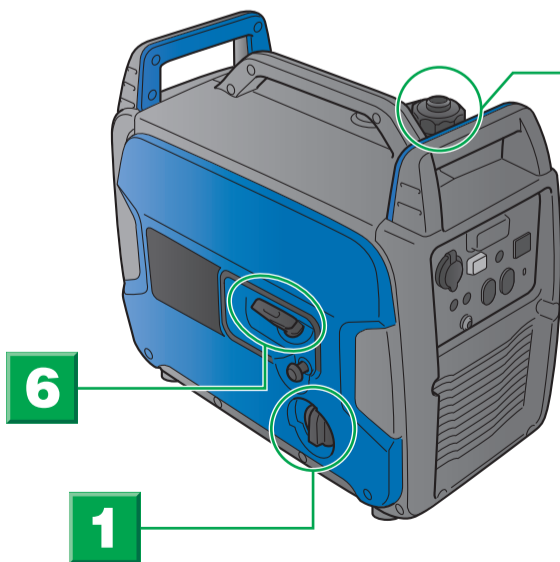
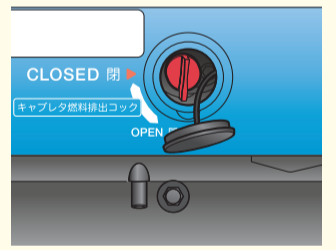
- 3 キャブレタのドレンパイプを容器に受け、キャップを外します。キャブレタ燃料排出コックを“開”にし、燃料を抜きます。

警告

- こぼれた燃料はただちに布きれ等で完全にふき取ってください。火災のおそれがあります。

要 点

- キャブレタ内のガソリンを抜かず長期間放置すると、ガソリンが変質しエンジンがかからなくなる場合があります。



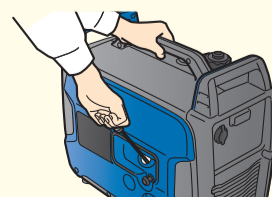
警告

- 燃料のガソリンは高い引火性と爆発力がありますので、次の事項を必ずお守りください。
- 燃料の抜き取りは、換気の良い場所でエンジンを停止してから行ってください。
- 燃料の抜き取り中は、タバコの火や他の火種になるような物を近づけないでください。また静電気が発生しないように注意して行ってください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入った場合は、ただちに医師の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹸と水でただちに洗い、衣類は取り替えてください。

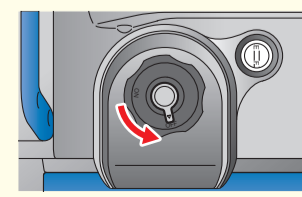
注意

- 燃料が変質してエンジンの始動が困難になる場合がありますので燃料は抜いてください。

- 6 リコイルスタータハンドルを3回ほど引き、重くなった状態 (圧縮状態) で止めます。



- 5 燃料タンクキャップつまみを“OFF”にします。



- 4 キャブレタ燃料排出コックを“閉”にします。

